

群 教 セ	G08 - 05
	令 4.281集
	農業

農業科目「グリーンデザイン」における フラワーアレンジメント作品制作に関して 主体的に取り組める生徒の育成

— ICT端末を活用した
ポートフォリオ作成と評価活動を通して—

特別研修員 山田 孝

I 研究テーマ設定の理由

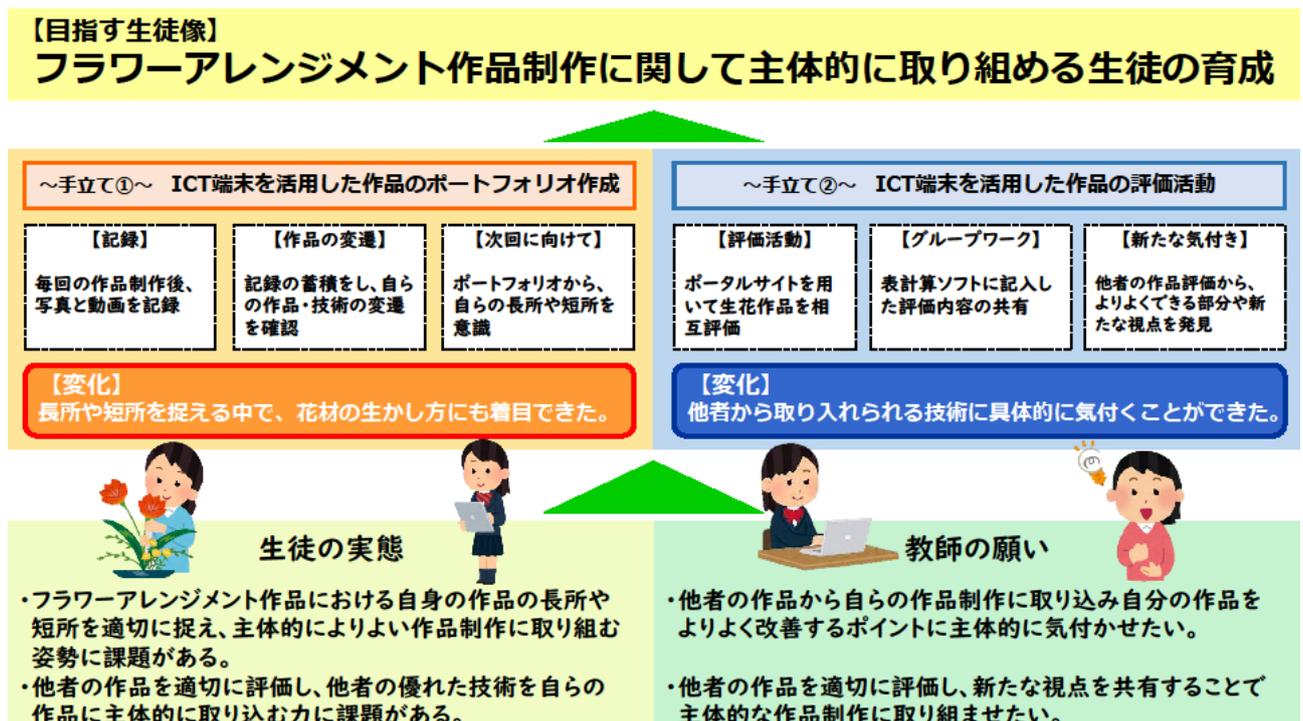
令和4年度県立学校教育指導の重点では、「主体的に判断・行動できる力の育成、児童生徒一人一人の個性や能力・適性等に応じた指導の充実を図り、「生きる力」を育む。（抜粋）」とあり、自ら作品等に対する課題を判断し、解決を図る能力の育成を重視している。

研究協力校の「グリーンデザイン」を受講する生徒は、特にフラワーアレンジメントに興味をもち、コース選択をしている。今まで生花を含めアレンジメント制作経験がある生徒はごくわずかであり、日々新たな知識や技術の定着を目指し学習に取り組んでいる。しかし、多くの生徒がアレンジメントの基本形は習得できているが、自らの作品の長所や短所を適切に捉えることや、課題意識をもって主体的に作品制作に取り組むことが困難な状況である。

そこで、ICT端末を用いて個々の作品をポートフォリオ化し、自らの作品の変化を意識付けするとともに、お互いの評価活動を行うことで他者からの視点も考慮した作品制作につなげられるようにしたいと考えた。これらの活動を通して、他者のよい技術や新たな視点に気づき主体的によりよい作品制作に取り組む姿勢を醸成することを目的として、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

農業科目「グリーンライフ」のフラワーアレンジメント制作において、主体的に学習に取り組むことができる生徒の育成を目指し、以下の二つの手立てを用いて授業を行った。

手立て1 ICT端末を活用した作品のポートフォリオ作成

ICT端末を用いて、生花の作品の写真と動画を各個人のポータルサイトに毎回蓄積することで、作品のポートフォリオ化を図る。

授業の冒頭でポートフォリオの確認を行うことで、自らの作品・技術の変遷を確認するだけでなく、長所や短所を意識できるようにする。

手立て2 ICT端末を活用した作品の評価活動

個人のポートフォリオから同日の作品データを収集し、ポータルサイト上で作品展を行う。

グループワークを通して表計算ソフトへの入力や作者の意図と評価のポイントを共有することで、作品をよりよくするための視点の発見や次回作品へのヒントを協働的に得られるようにする。

通常、生花を用いた作品制作時には、授業時間内に作品の構想から制作まで行うため、お互いにその場で評価し合うことは困難な状況である。そこで、ICT端末を用いて作品を記録することで制作後にすぐに評価することができない場合でも、後日時間をかけて評価することが可能である。また、自らの作品をポートフォリオ化することで、作品の変遷を主体的に確認できると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 作品制作前にポートフォリオの確認を行うことで、自らの作品の長所や短所を意識し、本時の作品をよりよくするために気を付けるべきところを生徒自身が見付けることができた。
- 写真だけでなく動画に作品の意図や説明を入れることで、制作者の意図も伝えることができ、より花材の特徴の理解に主体的に向き合おうとする意識の変化も見られた。
- 他者の作品から自分にはなかった視点に気付くことができ、「フォーカルポイント（アレンジメント作品における注目すべきポイント:以下FP）を明確にするためFPに使用したい花材を短く切りすぎないように注意することを次回の作品に生かそうと思う」などの記述も見られ、よりよい作品制作に向け主体的に改善する姿勢が見られた。ICT端末を用いることで授業内に限らず、家庭学習時においても評価の確認を主体的に行うことができるようになった。
- 相互評価を行う中で、生徒は互いの作品を見て感じたことを文章化する力や言葉にして伝える能力の向上が見られた。

2 課題

- 評価項目が増えた際、評価に必要な時間が多くかかるため、授業時間内での評価活動ではポイントを絞る必要があると感じた。また、ICT端末での入力速度に個人差があるため、入力の時間配分にも工夫が必要である。
- 毎回の作品におけるテーマや花材が異なるため、ポートフォリオを確認するだけでは単純な比較をできない点もある。今後は、主体的にどこをよくしようとしたかなど、文章による記録も残す工夫を図りたい。
- 今回使用したポータルサイトの性能を最大限に生かすためには多くの時間が必要であり、授業時間内での生徒のポータルサイトの習熟には制限が多く課題である。

実践例

1 単元名 「フラワーアレンジメント」(第3学年・2学期)

2 本単元について

草花を育てたり飾ったりすることは住環境の改善、生活の質の向上、生活空間の効果的な演出に大いに役立っている。草花の装飾材料や園芸材料など、生活環境を創造する植物素材として供給される生活場面の利用について学習する。草花がもつ装飾的特性や色もたらす心理的效果を理解するとともに、フラワーアレンジメント制作を通して基本的な制作技術を身に付け、よりよい制作にしようと課題を見付けながらそれを改善し、主体的に取り組む姿勢を養うことを目指すものとする。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) フラワーデザインの役割と各種アレンジメントについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。(知識及び技術) (2) フラワーデザインの役割と各種アレンジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。(思考力、判断力、表現力等) (3) フラワーデザインの役割と各種アレンジメントについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)	
評価 規 準	(1) フラワーデザインの役割と各種アレンジメントについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。(知識・技術) (2) フラワーデザインの役割と各種アレンジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。(思考・判断・表現) (3) フラワーデザインの役割と各種アレンジメントについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1 ～4時	・様々なアレンジメント制作を通して、アレンジメントの基本形とそれぞれの花材の役割について学ぶ。
追究する	第5 ～24時	・基本形を基にアレンジメント制作を行い、ICT端末を活用して写真と動画をポートフォリオに蓄積する。
	第25 ～26時	・各自の作品をポータルサイト上で展示した作品展の中で、それぞれの作品について評価活動を行う。
	第27 ～29時	・評価活動の評価を基に、自らの作品を改善する。
まとめる	第30時	・年間を通して制作したアレンジメント作品のポートフォリオを確認し、今後の作品制作において必要な力をグループで話し合う。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全30時間計画の第24・25時に当たる。ICT端末を用いて、制作したフラワーアレンジメント作品の評価活動を協働的に行うことで、従来では困難であった生徒同士による各個人の作品に対する意見の共有を図る。また、作品をポートフォリオとして蓄積することで自らの作品の変遷を確認しながら、作品の改善に主体的に取り組む姿勢を身に付けるよう二つの手立てを具現化し授業を展開した。

手立て1 ICT端末を活用した作品のポートフォリオ作成

作品制作後に写真・動画を撮影し、個人ポートフォリオに蓄積する。

手立て2 ICT端末を活用した作品の評価活動

ポータルサイト上で相互評価の内容を表計算ソフトに記入し、評価の共有を行う。

4 授業の実際

前時に、ICT端末を用いたポートフォリオの作成を行った。通常では授業時間や保存期間の制限から困難である生花を使用した作品制作後の評価活動を行うため、制作後すぐに写真と動画で作品の記録を行った。写真は正面・右側・左側の3方向から撮影した。動画に関してはFPを設定した部分と、花材の特徴を生かした部分の2点について口頭で説明し記録させた。また、撮影した写真や動画をポータルサイト上に作成した個人ポートフォリオに記録として蓄積した。これらを通して、毎回の作品制作時にポートフォリオの確認を行うことで、自らの作品の得意な部分やよりよくすることができる部分について考え、実際に作品制作に取り込むことや、他者からの視点を意識した作品制作に取り組むことができると考え、記録を蓄積した。

(1) 導入

個人のポートフォリオを確認し、前回の作品と比較し今回の作品において改善を意識した点や自らの作品に対して他者からのアドバイスを意識した点についてワークシートに記入した。

(2) 評価活動

今回の作品展の写真・動画を作品展用ポータルサイト上に示した(図1)。生徒は、ICT端末上では作品展を、デスクトップ画面上に表計算ソフトの評価表を表示して、グループの生徒の作品を画面上で確認しながら、本時の評価活動を行った(図2)。

評価項目は花材の特徴(FPがしっかり分かるか)・色の配置(配色や見栄え)・創造性(よいと感じた点)の3点に絞り、①作品制作に取り入れたい技術、②よりよくするためのアドバイスの二つの視点で評価活動を行った。生徒たちは剣山の隠し方やFPに使用する花材のよりよい配置など、他者の作品のよい点やよりよくするための視点について気付いたことを記述していた(図3)。



図1 ポータルサイト上の作品展



図2 評価活動の様子

①自らの作品制作に取り入れたい技術、②よりよくするためのアドバイス				
評価者	制作者	花材の特徴 (FPがしっかり分かるか)	色の配置 (配色や見栄え)	創造性 (よいと感じた点)
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	①FPの花を数の多い花にすることで強い印象が与えられてよいと思った。 ②FPの花をもう少し左側に配置してもよいと思った。	①後ろに紫色のリンドウが配置してあり、華やかでよいと思った。 ②花の向きを揃えることで、花材の色がしっかりわかってきれいになると思った。	①剣山を隠す場合に葉を使用しているところ。 ②花材の特徴を生かして、長く使う場面や短く使う場面で立体感や臨場感を表現したところ。

図3 表計算ソフト上の評価表

(3) グループワーク

表計算ソフト上に記入された評価をグループ内で共有し合った。作品に対して、評価者は文章では説明することができなかった部分を口頭で補足し、制作者は評価者に対して制作の意図を説明した。協議の中で、「色が近い花材を集めてしまったが、他の作品と見比べると特徴の似ている花材同士の場合は、高低差を付けてみたらよりFPが際立つかな」といった意見が交わされるなど、他者の作品から取り入れられる技術を主体的に学び次回の作品制作に生かそうとする姿勢が見られた(図4)。通常は教師からのアドバイスを基に改善する場面が多いため、作品制作が受動的になりやすいが、相互評価をしたことで次回の作品制作をどのように行うかを、各自が考えながら意見交換をしていた。



図4 グループワークの様子

(4) まとめ

次回の作品制作に生かせる部分や、作品全般に関して気付くことができた部分をワークシートに書き出した。その後、ペアで発表をすることで新たな気付きや意識の共有ができた。最後に、授業のまとめとしてポータルサイトから本時の「振り返り」を行った(図5)。アンケート作成ソフトへの記述では、「花材の高低差がでると立体感が増していたので、作品に取り入れたい」など他者の作品を評価したことで、自らの作品をよりよくするための気付きを得た記述が多く見られた。

①前回の評価活動を受けて、作品制作に生かした部分を具体的に教えてください。*

回答を入力

②本日の評価活動を通して、次回以降の作品制作では具体的にどのようにしていきたいと考えましたか。*

回答を入力

③次回の自らの作品制作に生かす部分を、②のように考えた具体的な理由を教えてください。*

回答を入力

図5 アンケート作成ソフトによる振り返り



図6 個人のポートフォリオ

5 考察

手立て1における個人のポートフォリオ作成(図6)では、当初は、生徒から動画で説明するためにアレンジメントで使用した花材の名前や特徴等を正確に覚えることが難しいとの声が上がっていた。しかし、記録を重ねる中で、しっかりと花材の名前や特徴を把握しよう意識するようになったとの意見を聞くことができた。作品制作前にポートフォリオを確認する時間を設けることで、自らの作品を客観的に見て、得意な部分や苦手な部分を確認しながら制作を行うことができるようになった。各個人のポートフォリオは、教師も閲覧できるようになっているため、教師からの具体的なアドバイスも行いやすくなった。個人のポートフォリオ作成の効果として、1年間の自らの技術の変遷を確認できるようになったことや、学校だけでなく家庭においてもICT端末を用いて確認することができるようになったこと、今までは困難であったフラワーアレンジメントの作品制作分野においても予習が可能になったことなどが挙げられる。これらのことから、生徒の学習意欲や主体的に作品制作に取り組む態度を養うことができたと考える。

手立て2では、他者の作品を評価することで「剣山を隠すために葉を使用しているのを見て、その方が自分の作品もよりよくなると思った」などの意見があり、他者の作品のよい部分を見付け、自らの作品をよりよくできるように主体的に結び付ける姿勢が見られた。また、「FPに使用する花材は短く切りすぎると目立たなくなるため、次回から長さについても気を付けたい」との意見があり、自らの作品の短所について客観的に捉えるとともに、主体的によりよくするための具体的な改善策に気付くことができていた。さらに、評価活動を行う中で、生徒は今までには感じなかった「他者の視点に気を付けること」や「自らの作品を評価されること」という項目を意識することができた。これらのことから、ICT端末を用いたポートフォリオ作成や評価活動は、他者の評価を受け作品を調整する力や、他者の作品から取り込んだ技術を生かして、作品をよりよくしようと粘り強く制作に取り組む姿勢を醸成できたと考える。

課題として、作品のテーマや花材は毎回異なるため、ポートフォリオを確認するだけでは単純な比較ができない点もある。主体的にどこをよくしようとしたのかを、文章でも記録に残すなどの工夫を図りたい。

6 資料

【ワークシート】

11/01

グリーンデザイン

3A 番 氏名 _____

本日の目標

他者の優れた技術を見付け、自分の作品に生かす視点をもつ

～ポートフォリオから～

◇前回の他者から受けた評価を基に、今回の作品制作で心がけた部分はどこですか？

【今回の作品制作時に意識したポイントを書いてください】

～評価活動～

【評価のポイント】

- ✓ 花材の特徴が生かされているか 【FP がしっかり分かる花の向き、FP を生かす配置】
- ✓ 色の配置 【配色が適切で、作品としての見栄えがよいか】
- ✓ 創造性 【作品としてよいと感じた点】

～評価活動を終えて～

◇次回の作品制作に向けて、グループ内で情報共有したことを書きだそう

【次回の作品制作に生かせる部分(改善点)を具体的に書いてください】

【なぜ、その部分(技術)が生かせると感じたのか具体的に書いてください】